

# 高橋かずちかの「**打開トーク**」vol.5



高橋かずちかが、東京都の社会的・経済的な「地盤沈下」に対処すべく、中野の現場に着目して「打開」の方向性を探る対談。現場目線で地域の皆さんと一緒に、東京・中野の未来を打開します。

今回は、世代や生活スタイルを超えて、皆が便利に利用できる「ユニバーサルデザイン」の方向性について探るべく、担当大臣で推進者でもある野田聖子衆議院議員との対談です。

高橋：私は清水建設勤務時代からユニバーサルデザイン（＝誰でもいつでも便利に使えるまちづくり）という発想にこだわっています。今後のまちづくりを考えるうえで重要な考え方になります。しかしバリアフリーを超えたこの発想は、普及しておりません。

野田：私も国政でユニバーサルデザインに注目しています。従来までのバリアフリーは障害をお持ちの方向けの意味合いが強かったのですが、ユニバーサルデザインは高齢者には勿論、全世代全ての人々を対象にしている点が重要です。

高橋：日本は諸外国に先駆けて高齢化社会を迎えています。この状況を活かして、ユニバーサルデザインの発想で住みやすいまちづくりを実現すると同時に、都市の魅力を高め地域を活性化することが出来ますね。

野田：そうですね。まちづくりの発想を変えることで、新たな需要を生み出して民間経済の活性化につなげることも出来ますね。

高橋：そうです。商店などでもユニバーサルデザイン対応店には多くのお客様が来店しリピーターになるといった事例もありますし、努力した分だけ成果があがる仕組みだと思います。

中野はこれから「中野駅周辺まちづくり」や「西武新宿線開かずの踏み切り対策」等々で「駅」を中心としたまちづくりが大きく進んでいきます。絶好のチャンスだと思います。

野田：東京都、特に中野は世界No.1の人口密集地域であり、まちづくりも非常に複雑な都市です。ここで、ユニバーサルデザインを実現することは大変な努力が必要です。国と東京都とタッグを組んでいっしょにやっていきましょう。

高橋：私の都政打開のメインテーマとして全力で取り組んでいきたいと思っています。



衆議院議員

**野田聖子氏**

内閣府特命担当大臣(科学技術政策・食品安全)  
消費者行政推進担当大臣  
宇宙開発担当大臣



ユニバーサルデザインとは、世代や生活環境を超えて自分の意志で、好きな時に好きな所へ出かけていけるという発想が初めから組み込まれたまちづくりである。結果として街に賑わいが生れ、地域も経済的メリットを享受できる。過密都市中野を元気にする基本姿勢であり、ライフワークとして啓蒙活動を含めて積極的に推進していく決意である。